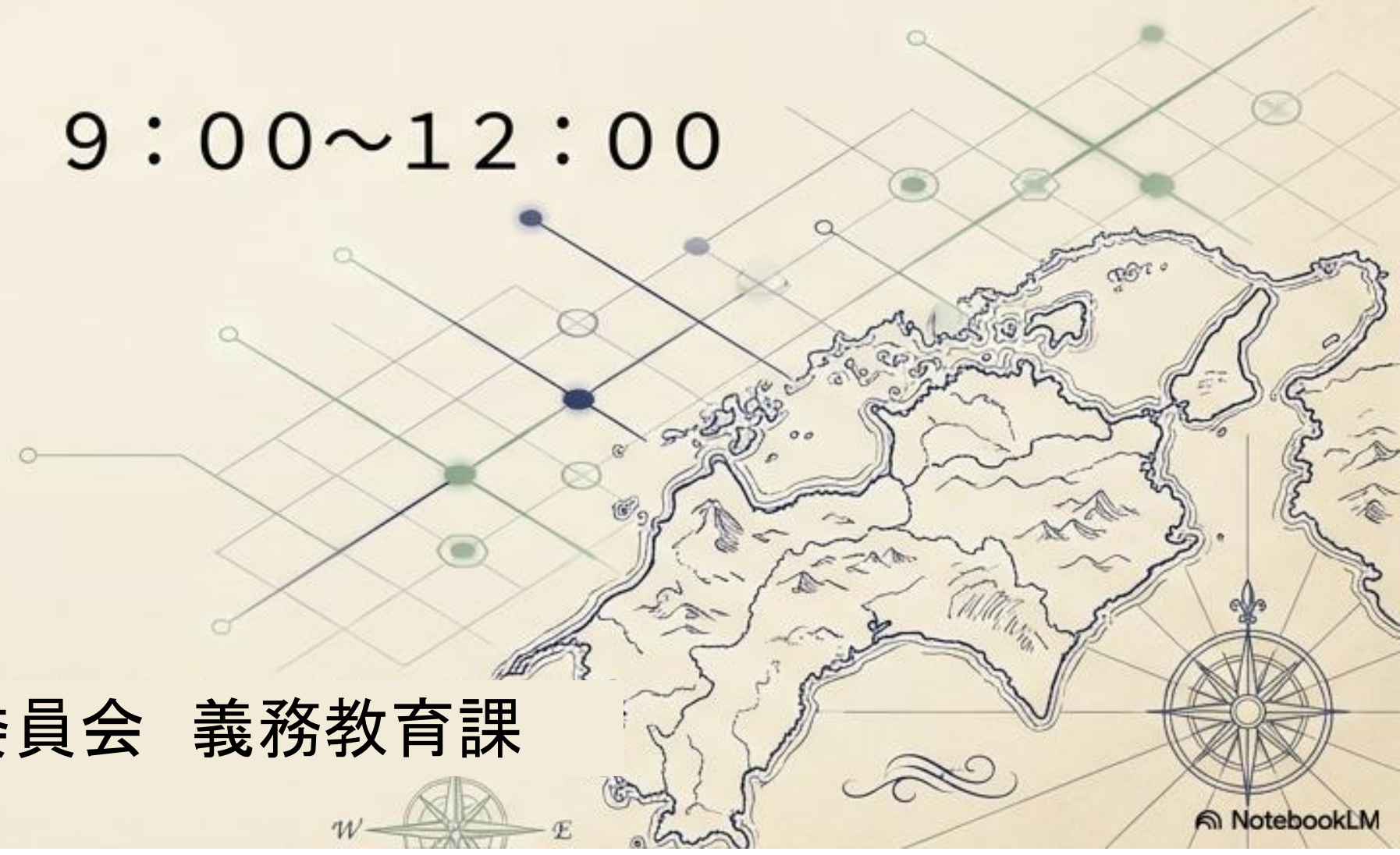


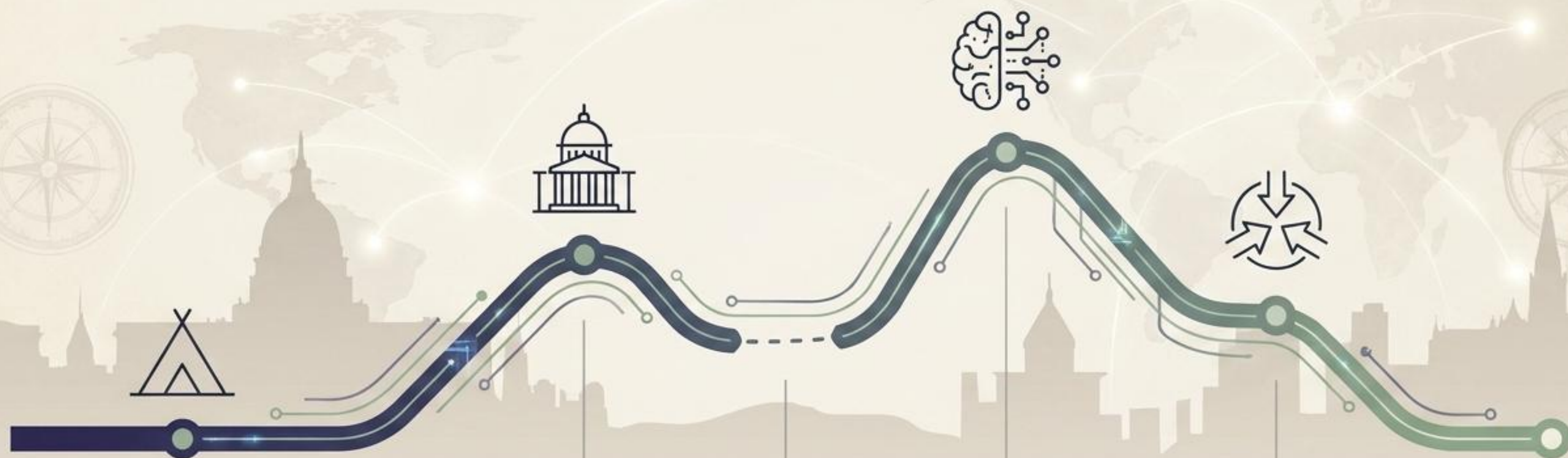
令和8年度 徳島県中学校教育課程研究集会（社会科）

令和8年7月27日 9:00~12:00

徳島県教育委員会 義務教育課



本日の日程と学びの軌跡



9:00-9:30 | 受付

9:30-9:40 | 開会・日程説明

イントロダクション

9:40-10:50 |

講演・部会 I

(休憩)

11:00-11:50 |

部会 II

11:50-12:00 |

リフレクション

12:00 |

閉会

最終目標：
主体的・対話的で
深い学びの実現

学習指導要領における
各教科の実施上の
諸問題解決

GIGAスクール構想
(一人一台端末)を
活用した学びの充実

社会科教育を支える「両輪」



【課題解決】

複雑化する社会事象への対応と、
指導内容の最適化



【学びの充実】

生徒一人一台端末を通じた、
個別最適な学びと協働的な学びの実現

【部会Ⅱ】本年度の共通課題

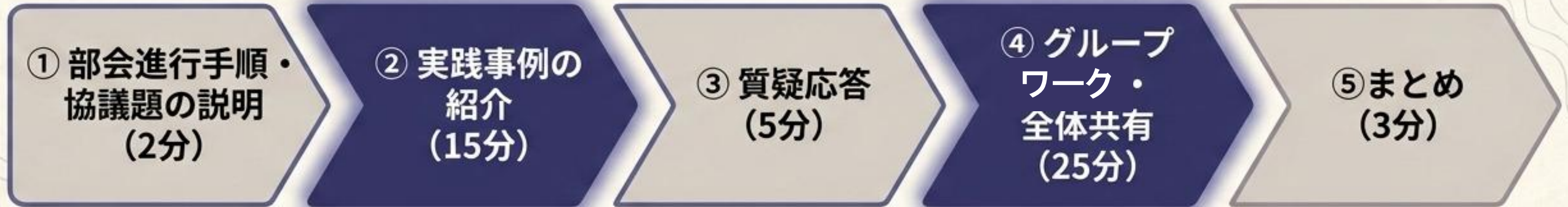
時間：11：00-11：50（50分）

「生成AIを活用した 魅力ある授業づくり」

～主体的・対話的で深い学びの
実現に向けて～



部会Ⅱ 進行手順



教育現場を支えるAI活用ガイド：授業準備から評価まで

教員がAIを「パートナー」として活用し、業務効率化と生徒の学びの深化を両立する方法



授業準備：教材作成の効率化



指導案と導入 アイデアの作成

単元に合わせた興味を惹く導入案をAIが即座に提案します。



習熟度別の 読解・問題作成

1つの題材から習熟度に合わせた教材を瞬時に書き分けます。



小テスト・クイズ の自動生成

解説付きの4択クイズを作成し、学習アプリへスムーズに連携できます。



授業と評価：学びの深化と分析



対話による 思考の「壁打ち」

AIが反対派や相談相手となり、生徒の論理的思考やアイデアを深めます。



個別学習を支 える「副担任」

生徒が自分のペースで質問でき、教員の手が回らない部分を補完します。



評価基準の作成と 傾向分析

ルーブリック作成や振り返りシートの要約により、次の一手を可視化します。

端末から深い洞察へ：GIGA×生成AIの活用サイクル

Phase 1 (Input)



生徒（一人一台端末）

- 疑問の言語化と
プロンプト入力

Phase 2 (Process)



生成AI

- 多角的な視点の提示・
歴史的背景の整理・
データの視覚化

Phase 3 (Output)



社会科における深い学び

- 批判的思考に基づく情
報の精査と、新たな問
いの生成

初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン(Ver. 2.0)【概要】



教職員や教育委員会等の学校教育関係者を主たる読み手として、学校現場における生成AIの適切な利活用を実現するための参考資料となるよう、生成AIの概要や基本的な考え方、場面や主体に応じて押さえておくべきポイントをまとめたもの。



1. 生成AIについて		3. 学校現場において押さえておくべきポイント	
生成AIの概要	● 生成AIとは、文章、画像、プログラム等を生成できるAIモデルにもとづくAIの総称 ● 汎用的なサービスだけでなく、様々な提供形態・提供主体が出現し、教育分野にも導入 ● 様々なリスクの存在が指摘される一方で、技術的な対策も進展	教職員が校務で利活用する場面	● 校務において利活用することで、校務の効率化や質の向上等、働き方改革につなげていくことが期待される ● 教職員自身が新たな技術に慣れ親しみ、利便性や懸念点を知っておくことは、児童生徒の学びをより高度化する観点からも重要 ● 生成AIの仕組みや特徴を理解した上で、生成された内容の適切性を判断できる範囲内で積極的に利活用することは有用
2. 基本的な考え方			
人間中心の利活用	● 生成AIを有用な道具になり得るものと捉え、出力を参考の一つとして、リスクや懸念を踏まえた上で、最後は人間が判断し、責任を持つことが重要 ● 学習指導要領に定める資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味した上で利活用 ● 学びの専門職としての教師の役割が一層重要	児童生徒が学習活動で利活用する場面	● 発達の段階や情報活用能力の育成状況に留意しつつ、リスクや懸念に対策を講じた上で利活用を検討すべき。その際、学習指導要領に定める資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味することが必要 ● 「生成AI自体を学ぶ場面」、「使い方を学ぶ場面」、「各教科等の学びにおいて積極的に用いる場面」を組み合わせたり往還したりしながら、生成AIの仕組みへの理解や学びに生かす力を高める
情報活用能力の育成強化	● 生成AIの仕組みの理解、学びに生かしていく視点、近い将来生成AIを使いこなすための力を、各教科等の中において意識的に育てていく姿勢は重要 ● 生成AIが社会生活に組み込まれていくことを念頭に、情報モラルを含む情報活用能力の育成を一層充実させていくことが必要	教育委員会等が押さえておくべきポイント	● 教育委員会が主導して制度設計や方向性を示すことが重要 ● 各学校の実態を十分に踏まえた柔軟な対応を講じる必要があることあり、一律に禁止・義務付けるなどの硬直的な運用は望ましくない ● 先行事例や教材・ノウハウの周知・共有、研修の実施により、生成AIの適切な利活用を推進する環境を整備することが必要
		共通して押さえておくべきポイント	● 安全性を考慮した適正利用 ● 情報セキュリティの確保 ● 個人情報・プライバシー著作権の保護 ● 公平性の確保 ● 透明性の確保、関係者への説明責任
参考資料編		● 各場面や主体に応じたチェック項目、生成AIパイロット校における先行取組事例、学校現場において活用可能な研修教材 等	

出典：
文部科学省 初等中等教育局
令和6年12月26日

1. 現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性 (2) 現状の課題

オ. デジタル学習基盤の活用に関する課題

- 社会科の教師におけるICT端末の活用場面が、「共通の資料を大きく提示する場面」や「インターネットで自由に調べる場面」が中心となっており、論点整理でも指摘されているように、ICTの活用が教具的発想に留まっている状況が見られる。（中学校学習指導要領実施状況調査（R5年度））
- また、ブラウザにAIが実装され、検索結果の最上部にAIによる要約が表示される中、その内容を単純にコピー＆ペーストしている児童生徒に対して、適切な指導がなされていない実態もみられる。収集した情報の信頼性を確認する技能を一層高めるとともに、最終的な評価の段階でAIに頼って自らの思考を経ない成果物は通用しないような評価の工夫をしていくことが、喫緊の課題となっている。

令和8年6月26日
文部科学省
社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ
資料2
社会、地理歴史、公民
WGの取りまとめについて
より

1. 現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性 (3) 改善の方向性

イ. 課題を追究・解決する学習の充実

- 現代社会では、生成AIやSNSの普及により、膨大な情報が容易に得られる一方で、その真偽や信頼性を適切に判断する力が求められている。
- このため、資料や情報を収集するだけでなく、その真偽や意図、背景等をこれまで以上に把握し、その信ぴょう性等を検証し、根拠に基づいて自らの考えを形成する力を育成することが必要である。
- さらに、自らの考えを批判的に見直しながら、他者と対話し、より適切な判断につなげる学習過程を充実することで、社会科等における深い学びの実現を目指す必要があることから、「社会的事象等について調べまとめる技能」の見直しを行う。

令和8年6月26日
文部科学省
社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ
資料2
社会、地理歴史、公民
WGの取りまとめについて
より

5. 学習・指導・評価の改善充実のあり方

(1) 課題を追究・解決する学習の充実

イ. デジタル学習基盤を活用した学習の充実

- 社会科等におけるICT活用を、「課題を追究・解決する活動」において、**学習の質の高まりを促進するために必要な基盤として位置付け、以下の学習を踏まえて見直す。**
 - a 課題把握：社会的事象の把握に向けた統計資料等の検索・活用等
 - b 課題追究：適切な根拠資料や原典資料等の収集・分析等グループ内での活発な議論のための資料の共有等
 - c 課題解決：まとめレポートの作成や発表・共有等
- なお、児童生徒が主体的に学習を調整できる環境を整え、その実現を図っていく上でも、デジタル学習基盤は重要であることを認識し、適切に活用した学習活動の充実を図る必要がある。

令和8年6月26日

文部科学省

社会・地理歴史・公民

ワーキンググループ

資料2

社会、地理歴史、公民
WGの取りまとめについて
より

5.学習・指導・評価の改善充実のあり方

(1) 課題を追究・解決する学習の充実

ウ. AI活用の考え方

- 社会科におけるAI活用においては、最終的には生徒が自ら考え、判断し、成果物に内容を自らの言葉で説明し、自ら責任を持つという考え方の下、「社会的事象等について調べまとめる技能」の「情報の妥当性確認」に関する技能で示した視点も活用しながら、各学校段階や科目・分野において、必要な資質・能力を身に付けることができるかどうかという視点で、課題を追究・解決する学習活動を展開すること、それらの評価方法の改善を図ることを当面の基本的な考え方とする。
- 具体的には、最終的な評価の段階でAIに頼って自らの思考を経していない成果物は通用しないような評価の工夫をしていくことが、喫緊の課題であり、例えば、口頭試問の要素を取り入れる、GIGA端末のアンケートソフトのテストモードを活用して、ブラウザ閲覧や活用ができない環境下で自らの考えを根拠をもって記述させることなどが考えられる。

令和8年6月26日

文部科学省

社会・地理歴史・公民

ワーキンググループ

資料2

社会、地理歴史、公民
WGの取りまとめについて
より

実践事例の御紹介

中学校社会科における生成AIの実装と生徒の変容(15分)

【実践事例】

勝浦町立勝浦中学校 大谷啓子教頭先生
(前 鳴門教育大学附属中学校 教諭)

【実践事例】

勝浦町立勝浦中学校 大谷啓子教頭先生
(前 鳴門教育大学附属中学校 教諭)

生成A I の活用実践

○教師のA I 活用 (Copilot)

- (1) 単元構想
- (2) 授業設計
- (3) 授業実践
- (4) 評価

○生徒のA I 活用 (クアリア)

- (1) 授業の導入 (見通し)
- (2) 課題解決
- (3) 授業の終末 (振り返り)
- (4) 再提出・深化／学習履歴



【実践事例】

勝浦町立勝浦中学校 大谷啓子教頭先生
(前 鳴門教育大学附属中学校 教諭)

生成A I の活用実践 (教師)

○単元構想

- (1) 目標・評価規準・生徒像の**整合性チェック**
- (2) 単元デザインの**妥当性**の検証
- (3) 問題場面の**改善提案**

○授業設計

- (1) 各時間の学習課題の**精査**
- (2) 発問・資料・活動案の**改善**
- (3) 授業構造の論理的整合性の**確認**

各授業の学習課題のAIによる精査

時間	設定した学習課題	AIの返答
第1次	私たちの生活における国や地方公共団体の役割は何でしょうか。	生活実感とつなげ自分事化しやすい。役割の全体像をつかむ出発点として適切。
第2次	税にはどのようなしくみがあるのでしょうか。	財政の基盤としての税の役割を理解する時間。制度的理解を深めるのに必要。
第3次	人間らしい生活を保つために、どのようなしくみがあり、何によって支えられているのでしょうか。	社会保障の意義と仕組みを考える時間。生活と制度のつながりを実感できる構成で適切。
第4次	少子高齢化において、社会保障制度を維持・改善させるためには、何が必要でしょうか。	現代的な課題に対して多面的に考えられ、対立と合意、効率と公正という見方・考え方が働く構造になっている。
第5次	単元の振り返り。単元を貫く問いの答えの記述。	単元を貫く問いに立ち返り、自分の答えを記述することは、深い学びにつながる。

【実践事例】

勝浦町立勝浦中学校 大谷啓子教頭先生
(前 鳴門教育大学附属中学校 教諭)

生成 A I の活用実践 (教師)

○単元構想

- (1) 目標・評価規準・生徒像の**整合性チェック**
- (2) 単元デザインの**妥当性**の検証
- (3) 問題場面の**改善提案**

○授業設計

- (1) 各時間の学習課題の**精査**
- (2) 発問・資料・活動案の**改善**
- (3) 授業構造の論理的整合性の**確認**

【point】

**自分の考えをもって、A I に質問する
(授業デザインの条件設定)**



自信をもって取り組むことができる

※ゼロから丸投げではない！

【実践事例】

勝浦町立勝浦中学校 大谷啓子教頭先生
(前 鳴門教育大学附属中学校 教諭)

生成 A I の活用実践 (教師)

○授業実践

- (1) 生徒の見直し・振り返りの一元把握

○評価

- (1) 生徒記述の自動評価 (一次評価)
- (2) 特徴抽出・改善点提示
- (3) 教師の専門的判断で最終評価

【point】

**AIによる評価支援をもとに、
教師自身が最終評価を行う**

市場に出回る通貨量を調整することを通して、日本銀行は景気が良くなりすぎてインフレにならないようにし、また景気が悪くなりすぎてデフレにならないようにすることで、物価を調整し、景気が安定するようにしている。この説明はあっているか

1月16日



さん、とてもよくまとまっているよ！



この説明はほぼ正確と言っていい内容だよ。ただ、ちょっとだけ補足してさらに分かりやすくできそうだから、ポイントごとに見てみよう



1. 日本銀行の役割：金融政策を通じて景気と物価を安定させる

・そのとおり！日銀は景気が過熱して物価（インフレ）があがりすぎるのを防ぎ、逆に景気が悪くてモノの値段が下がっていく（デフレ）ことも防ごうとしている

今回は

「金融の仕組み（直接金融・間接金融の違い・役割）がどれだけ正確に説明できているか」

という観点で、三段階（A・B・C）評価します。

評価基準

A = 金融の役割 + 直接金融・間接金融の違い + メリット・デメリットまで具体的

B = 基本説明はできているが、内容がやや浅い・一部あいまい

C = 説明が不十分・内容に誤りがある

1月16日

→ A

役割・直接金融と間接金融の違い・リスクと利益まで書けている。簡潔だが正確。

1月16日

→ A

金融の役割を社会全体の流れとして説明できている。銀行の利子の仕組みにも触れていて理解が深い。

1月16日

→ A

仕組みの説明が明確で、自分の将来と結びつけて考えられている。具体性がある。

1月16日

→ A

直接金融と間接金融の違いを正確に説明できている。表現も明確。



クアリアちゃん(AI)

【実践事例】

勝浦町立勝浦中学校 大谷啓子教頭先生
(前 鳴門教育大学附属中学校 教諭)

生成 A I の活用実践 (教師)

◀生成 A I を活用するメリット▶

＊教材研究の効率化

- ・資料整理や評価規準の精緻化
- ・授業構造の論理的整合性の確認
- ・A I の助言を複数回吟味し、教師の専門性で補正
→教材研究の質と速度が大幅に向上

【実践事例】

勝浦町立勝浦中学校 大谷啓子教頭先生
(前 鳴門教育大学附属中学校 教諭)

生成 A I の活用実践 (生徒)

○「見通し → 課題解決 → 振り返り」の学習過程の構築

① 導入 (見通し)

- ・ 各時間の学習課題について、自分の予想を入力 (自分の見通しの言語化)
- ・ 他者の見通しを閲覧 (視点の拡張)

② 課題解決

- ・ 語句や概念の疑問を A I に質問 (即時支援)
- ・ 思考停滞時に A I の問い返し
「別の立場では？」「影響を受けるのは誰か？」
- ・ 多面的・多角的な考察への思考を拡張



@ [redacted] 3年生 3組

【実践事例】
勝浦町立勝浦中学校 大谷啓子教頭先生
(前 鳴門教育大学附属中学校 教諭)

単元を貫く問い 私たちの生活を豊かにするために国や地方公共団体はどのような役割を果たすべきか。

学習課題についての予想

人々から税金を集め、在住している国民や住民に対し公正にサービスを与え、また、公共交通機関を充実させるなどといった国民や住民に必要不可欠なことを行うという役割がある。

学習課題についての答え

私たちの生活における国や地方公共団体の役割として、日本銀行と連携して財政政策を行い、インフレ・デフレにならないようにしたり、累進課税を行うことによってお金を持っている人から多く税を取り、お金を必要としている人に生活保護などといった形で再分配をしたり、企業や個人では実行するのが難しい道路建設といった仕事を行ったりしている。

ワクワク度：73 学んだ度：82

【実践事例】

勝浦町立勝浦中学校 大谷啓子教頭先生
(前 鳴門教育大学附属中学校 教諭)

生成 A I の活用実践 (生徒)

○「見通し → 課題解決 → 振り返り」の学習過程の構築

① 導入 (見通し)

- ・ 各時間の学習課題について、自分の予想を入力 (自分の見通しの言語化)
- ・ 他者の見通しを閲覧 (視点の拡張)

② 課題解決

- ・ 語句や概念の疑問を A I に質問 (即時支援)
- ・ 思考停滞時に A I の問い返し
「別の立場では？」「影響を受けるのは誰か？」
- ・ 多面的・多角的な考察への思考を拡張

【point】

**AIを使って、見方・考え方を働かせやすくする
(複数視点や対立と合意、
効率と公正など)**

【実践事例】

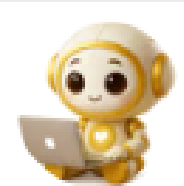
勝浦町立勝浦中学校 大谷啓子教頭先生
(前 鳴門教育大学附属中学校 教諭)

生成A I の活用実践 (生徒)

○「見通し → 課題解決 → 振り返り」の学習過程の構築

③ 終末 (振り返り)

- ・ 学習課題の答えを自分で考えて入力 (思考の可視化)
- ・ 他者の振り返りを閲覧 (比較・再構成)
- ・ A I からの良い点や改善点についてのフィードバック



援に関する条例の例を挙げてみますね。

1 税制優遇条例

・新たに進出する企業に対する法人税や不動産取得税の減免を提供する。このような条例は各地で見られ、企業のコスト負担を軽減する効果があります。

2 新規事業支援補助金条例

・新規に設立された事業所やスタートアップに対して、一定の条件下で補助金を交付する制度です。これにより、成長や新たな雇用創出を促進します。

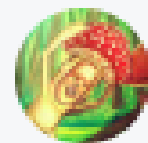
3 リモートワーク支援条例

・通信インフラの整備と組み合わせて、リモートワークを促進するための設備投資に関する補助や支援を提供する条例。

選択中

公開

いつもの



@

3年生 3組

銀行などの機関を通してお金を動かすこと。

1月13日

学習課題に対する答え

金融とは、お金に余裕のある人がお金が必要に人に対してお金を貸すこと。金融には銀行などの金融機関を通して行う間接金融と、企業などから直接株式を購入する直接金融がある。間接金融は企業が成功しても上乗せされる利子は変わらないためかえってくるお金に影響はないが、直接金融の場合は企業が成功すると配当金も増えるため利益が大きくなる。逆に企業が失敗すると配当金がなくなるため損をすることになる。

疑問に思ったことやもっと知りたいこと

直接金融で投資するとき、株主は成功する会社と失敗する会社をどうやって見分けているのかが気になった。

ワクワク度：100 学んだ度：100

【実践事例】

勝浦町立勝浦中学校 大谷啓子教頭先生
(前 鳴門教育大学附属中学校 教諭)

生成 A I の活用実践 (生徒)

○「見通し → 課題解決 → 振り返り」の学習過程の構築

③ 終末 (振り返り)

- ・ 学習課題の答えを自分で考えて入力 (思考の可視化)
- ・ 他者の振り返りを閲覧 (比較・再構成)
- ・ A I からの良い点や改善点についてのフィードバック

【point】

**AIを使うことで、
記述の質を高める**

【実践事例】

勝浦町立勝浦中学校 大谷啓子教頭先生
(前 鳴門教育大学附属中学校 教諭)

生成 A I の活用実践 (生徒)

○「見通し → 課題解決 → 振り返り」の学習過程を経て

＊ A I の助言を踏まえることで、
根拠の明示や用語の適切化、論理の一貫性が向上

【point①】
社会的認識力の向上

＊ 特定の視点による記述 → 複数視点や自分事化の記述

＊ 自分の思考の過程が記録され、ポートフォリオとしても活用できる

【point②】
社会の見方が変わったとの自己評価

【実践事例】

勝浦町立勝浦中学校 大谷啓子教頭先生
(前 鳴門教育大学附属中学校 教諭)

＜ ま と め ＞

- ＊【教師】授業の論理性・整合性・評価の質を高める
- ＊【生徒】思考の可視化・拡張・深化を支える
- ＊【二重の伴走構造】 → 社会的認識力の向上と学びの質の向上

【point】

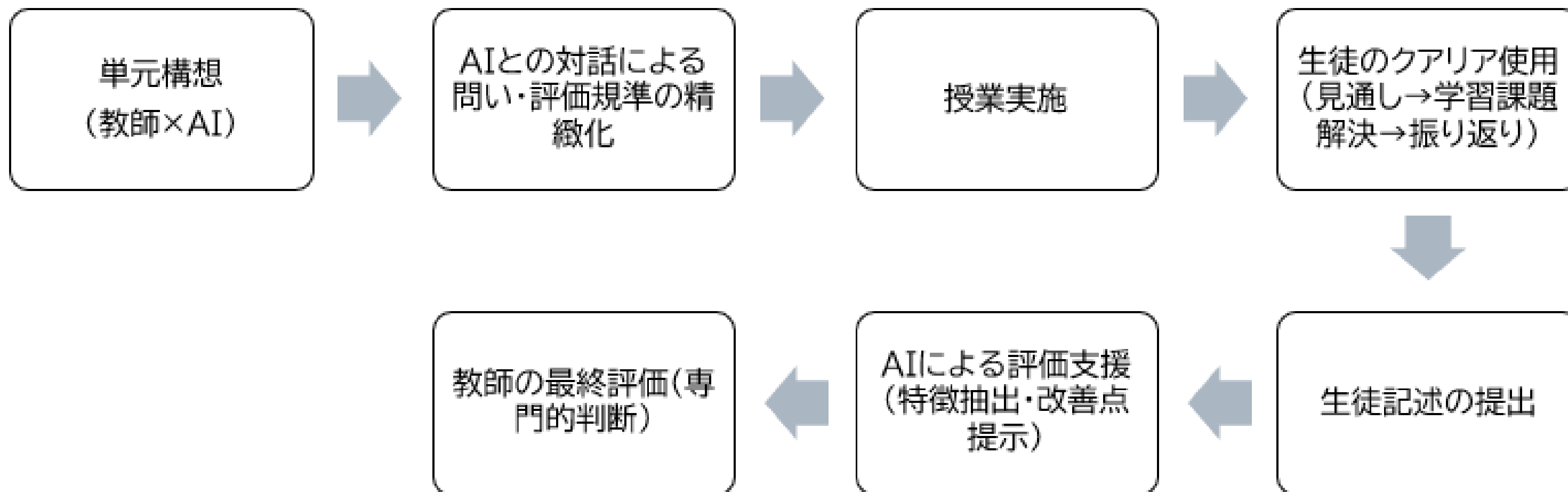
自分の考えをもって「これでどうですか？」
と聞く相手がA Iです！

この授業（単元）で

何を生徒に学ばせたいか、身に付けさせたいか、を
しっかりと考えておくことが大切です。

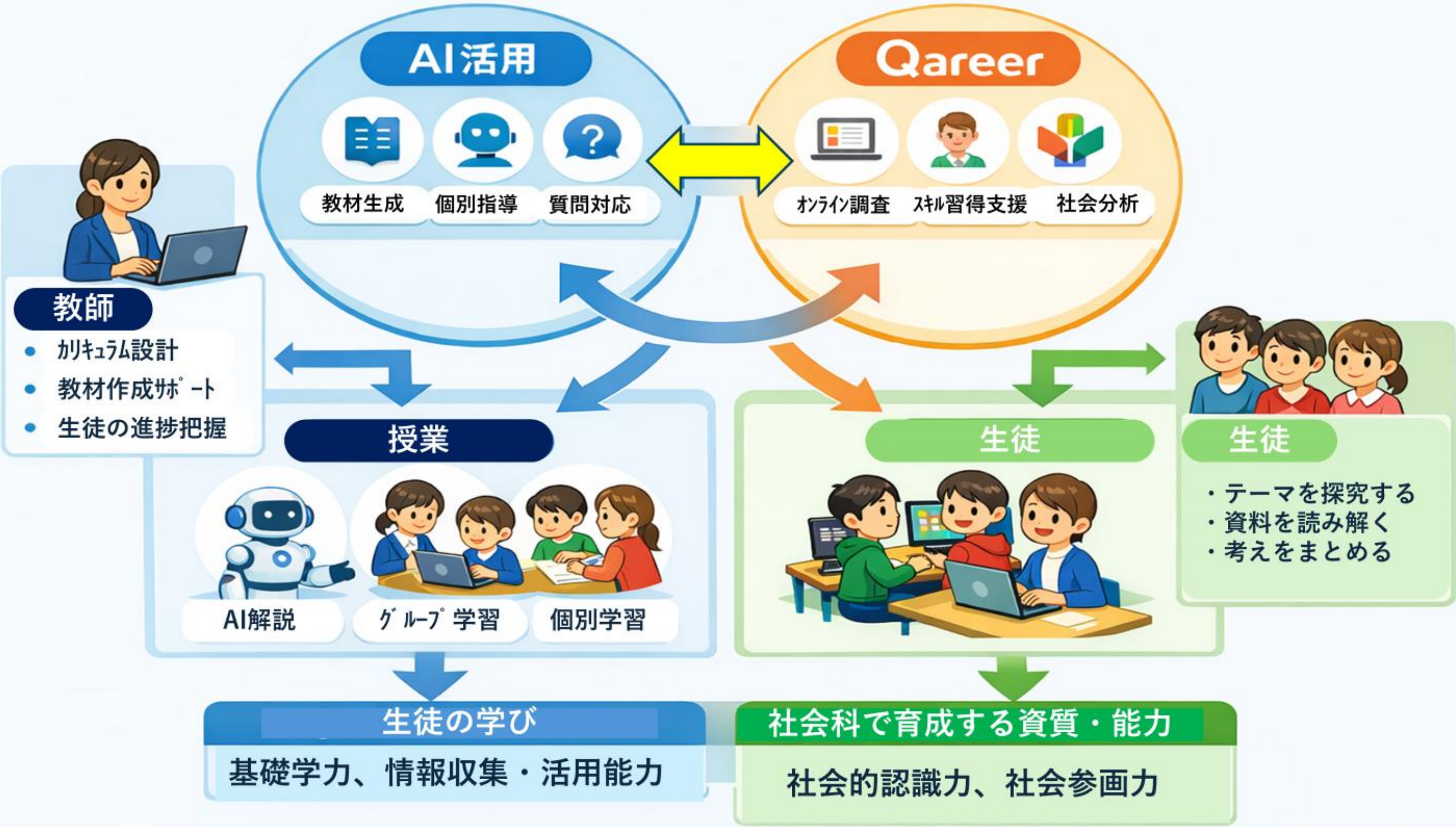
そのためのプロンプトをA Iに投げかけましょう。

AIとクアリアを活用した授業実践のプロセス



【実践事例】
勝浦町立勝浦中学校 大谷啓子教頭先生：作

AIとクアリア(Qareer)を活用した授業モデル図



グループワーク・全体共有（25分）

以下の2つの視点から、各校の状況を踏まえて協議をお願いします。

AI活用の実践例

- ・ 自校でどのように応用できるか
- ・ 生徒の思考を促す効果的な使い方



推進上の課題

- ・ 一人一台端末運用における技術的・倫理的ハードル
- ・ 教員のスキルアップと業務負担

リフレクション (11:50-12:00)

本日の知見を、明日の教室へ。
次期学習指導要領とGIGAスクール構想を両輪とし、
生徒たちの「主体的・対話的で深い学び」を
共に実現していきましょう。